

ROY SCHEIDER

ALL THAT



1980年度カンヌ映画祭
グランプリ受賞

ロイ・シャイダー主演

オール・ザット・ジャズ



第52回アカデミー賞4部門受賞



ロイ・シャイダー 作品 ALL THAT JAZZ

ジェシカ・ラング アン・ラインキング リランド・パーマー クリフ・ゴマン ベン・ベリリン
 撮影/ジュゼッペ・ロウワン 編集/アラン・ハイム 美術/フリップ・ローゼンバーグ ファナジー・デザイナー/トニー・ウオルトン
 音楽・指揮/ラルフ・バーンズ 共同製作/ケネス・ウット、ウォルフ・キヤング・グラッテス
 脚本/ロバート・アラン・アーサー、ポップ・フォッシー 製作総指揮/ダニエル・マルニク
 製作/ロバート・アラン・アーサー 監督/ポップ・フォッシー

© 1980 COLUMBIA PICTURES INDUSTRIES, INC. AND TWENTIETH CENTURY FOX FILM CORP.
 オリジナルサウンドトラック カサフランカ・レコード 制作/邦訳 早川書房

AL
THAT
JAZZ



1980年度カンヌ映画祭グランプリ受賞



ロイ・シャイダー主演

オール・ザット・ジャズ



第52回アカデミー賞4部門受賞

「オール・ザット・ジャズ」は、百人以上のダンサーたちがステージの上で群舞するオーデション風景から幕があく——まさにヒット・ステージ「コーラス・ライン」を思わせる。

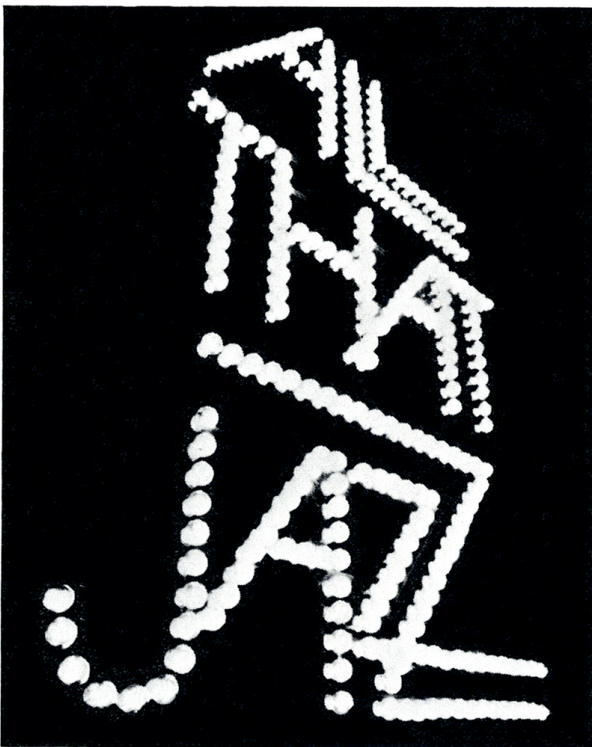
それぞれ好き勝手なレオタード、タイトに身をかためたダンサーたち。彼ら、彼女たちは、その鍛えられた肉体と肉声をただひとつの武器として試練に挑む。ジャズのリズムに躍動する肉体集団のパワーは圧倒的だ。豪華な舞台装置ひとつないステージ。そこはテクノポップの世界とはまったく

のへだたりをもった世界である。

イルミネーションがまばゆく走るN.Y.ブロードウェイ。今も昔もかわらぬ世界ショービジネスの頂点。

「キャバレー」「レニ

ー・ブルース」と、ショービジネスの世界に生きる人びとを描いてきた監督ボブ・フォッシー。79年、彼は生涯の集大成ともいべき「オール・ザット・ジャズ」を完成した。



「オール・ザット・ジャズ」それは、「ジャズ音楽のすべて」という意味ではない。「あれやこれや」「エトセトラ、エトセトラ」という意味のアメリカ俗語である。そして、この映画は、ステージにいのちを賭けたひとりの男ジョー・ギデオン(ロイ・シャイダー)の、愛と憎しみ、歓喜と悲哀、信頼と裏切り、自信と怖れ、成功と失敗、夢と苦悩、血と汗と涙、ステージ・カーテンのあがる前の、その男の人生のすべてを、圧倒的なダンス・シーンを織りまぜて描く。

ジョージ・ベンソンの歌う「オン・ブロードウェイ」ではじまり、エセル・マーマンの「ショーほど素敵な商売はない」で終るこの映画、それは、N.Y.ブロードウェイそのものである。



近日ロードショー

日比谷 **みゆき座** (591) 5357

新伊勢丹前 **文化シネマ1** (354) 2097

●特別鑑賞券 ¥1,100(一般 ¥1,400・学生 ¥1,200のところ)劇場窓口にて発売中